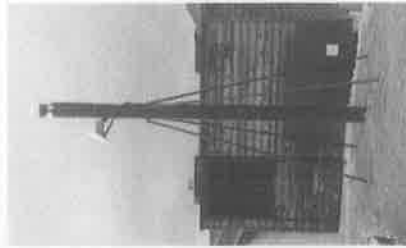


御嶽山の噴火災害(平成26年9月)を踏まえ、火山噴火予知連絡会の下に設置した検討会における緊急提言(平成26年11月公表)に基づき、火山観測体制の強化を計画

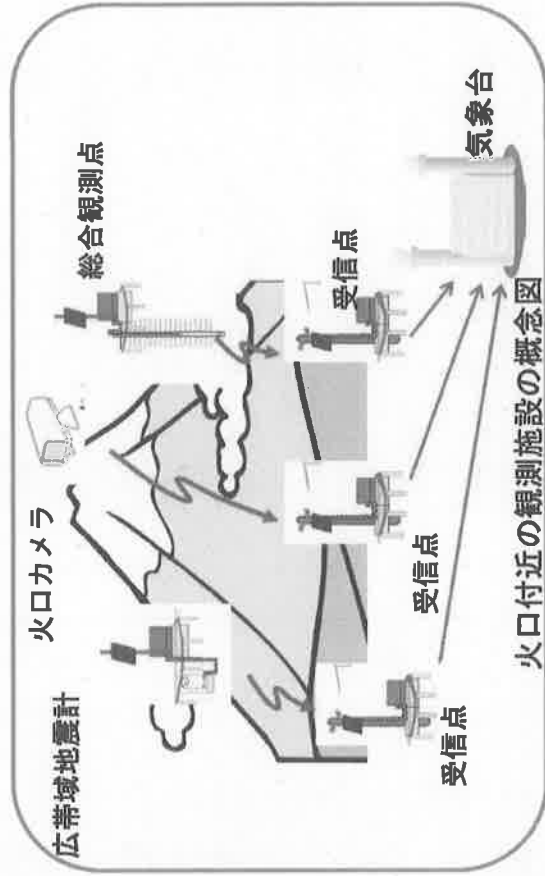
【弥陀ヶ原設置機器】



GNSS…GPS衛星などの測位衛星から発せられる電波を捉えることにより、観測点間の距離の伸び縮みを高精度かつ簡便に観測することができます。



火口(遠望)カメラ…火山全体を捉え、噴火の際には、その噴煙の高さなどを観測することができます。



総合観測点…火山活動を複数の観測種目により計測する観測施設です。地下100m程度の観測井を設けて、井戸底に地震計・傾斜計を設置し計測します。また、地上には空振計を設置します。

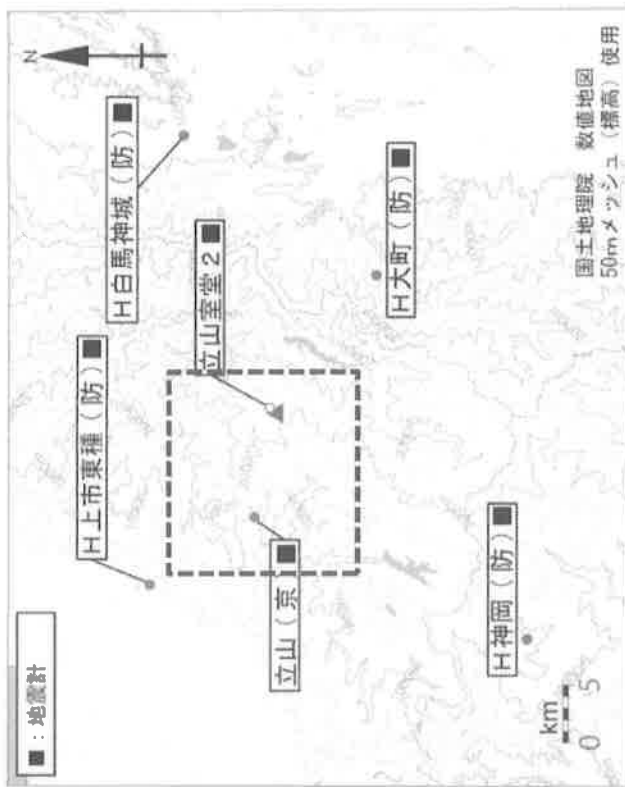


広帯域地震計…火山体内の流体の増圧や流動によって発生する長周期地震を検知することができる地震計です。通常の地震計では周期数秒までの震動しか捉えることができませんが、広帯域地震計では周期数百秒の長周期震動まで捉えることが可能です。

(直径17cm、高さ34cm、地中埋設)



弥陀ヶ原観測機器整備計画



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(防)：防災科学技術研究所、(京)：京都大学防災研究所

